

## 「分科会への討議に向けて」(まとめ)

海外日系人協会常務理事 堀坂浩太郎

森本さんには、日本人が国際社会でやっていくためには、個人や企業の意識変革が必要であること、また海外日系社会、日系団体ともっと協力関係を作っていくべきではないかと指摘をいただいた。

外務省山田中南米局長のお話は、日本の外交の前線を切り拓いたのは日系人なのではないかという認識が必要であることと、同時に日系社会の世代交代が進んでおり、それについて私たちはどう考えていくのか、ある意味で、危機感を共有するようなポイントをついている。充実したネットワークが作れたら、その課題に対しても対応できるのではないか。

厚労省・文科省のお話を聞いても、日本が変わりつつある、新しい局面が生まれてきていることを実感させられた。

北脇さんのお話は、今日のセッションの結論のような部分だった。日系人子弟の高校進学率80%というのはある種意外性を感じる数字である。その中身は、十分吟味しなければならないが、高校を目指して勉強し、大学で勉学し、それをベースに世界に出て、まさに挑戦する第二世代の姿をみせてもらった。同時に、それ以外のマイノリティの問題をどうするのか、私たちに突き付けられている大きな課題だと思う。

本日、午前中のお話をベースにして、午後からの分科会で3人の議長のもとで議論をしてもらいたい。「多極化時代に生きる日系社会と日本」というテーマで意見集約をお願いしたい。